

◆2026年度 中学入試 第1回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	99.0%	99.7%	整数、小数、分数の四則演算 計算の工夫 逆算	概ね良く出来ていたが、工夫を要する(3)と逆算の(4)でやや合否の差が出た。
	(2)	87.2%	90.4%		
	(3)	73.9%	81.7%		
	(4)	78.9%	87.6%		
2	(1)①	93.0%	97.5%	損益算の基本	(1)～(3)定番ともいえる基本的な問いである。 (4)②や(5)が合否を分けた問いとなった。 (6)は角度計算の問題ではあったが、 想定より苦戦している受験生が多く見られた。 やはり、この大問2を素早く確実に解く力が、 合格するためには必須と言えるであろう。
	(1)②	83.4%	90.1%		
	(2)①	91.9%	95.4%	割合（濃度）の基本	
	(2)②	86.5%	94.7%		
	(3)①	83.8%	97.8%	流水算の基本	
	(3)②	73.0%	88.5%		
	(4)①	83.8%	96.0%	割合（比）の基本	
	(4)②	54.2%	72.8%		
	(5)①	57.6%	76.2%	相当算の基本	
	(5)②	75.9%	90.4%		
(6)①	64.3%	81.4%	図形（角度）の基本		
(6)②	63.4%	79.6%			
3	(1)	85.8%	95.4%	体積と水面の高さの基本	予想以上に良く出来ていた。このレベルの問いを いかに素早く、ミスなく解けるかがポイントと なった。
	(2)	58.1%	76.8%		
4	(1)	62.4%	83.9%	面積と面積比の応用	対角線が面積を2等分することに気づくと解きや すい問いであった。一方でつまづいた受験生も一 定数いた。
	(2)	37.2%	61.6%		
5	(1)	90.5%	94.4%	整数問題の応用	(2)(3)が(4)の誘導になっているのだが不合格者は (2)でつまづいている。(3)はミスなく正答するの が難しく、(4)は工夫しないと解答に時間がかかっ たようだ。 (3)以降の正答率が合否を左右した。
	(2)	64.6%	78.0%		
	(3)	34.8%	49.5%		
	(4)	3.4%	6.2%		
6	(1)	60.5%	82.4%	通過算の応用 グラフの見方	条件を整理しながら、グラフを読み解く力が必要 な問であった。(3)は完答するのが非常に難し かったようだ。特に(2)以降の正答率が合否を左右 した。
	(2)	41.1%	65.3%		
	(3)	31.7%	38.9%		